

佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

転換の時に

里見吉英

障害者自立支援法を取り巻く状況はご存じの通りです。民主党は「障害者自立支援法」を廃止し「障がい者総合福祉法」を制定しようとしています。今回、政権が変わったことで、知的障害者福祉協会は、まず活動の基本方針を改めようと、活動の基本方針について4項目を掲げています。

1つ目として、新政権である民主党への働きかけの道筋を作るとのこと。2つ目に、厚生労働省との折衝を強化する。3つ目に、関係団体との協力関係への配慮。4つ目は、福岡の施設で処遇の問題がありました。利用者のニーズに応え続けるため会員の意識及び施設の改革をする。というものです。また、新政権に対しては全員の役員さんをお願いし、要望を取りまとめ知的障害者福祉の充実に向けて次のような要望をしています。

障が優先になった場合に問題があります。3番目は、利用者負担は応能負担として入所施設利用者負担の更なる軽減を求める。4番目は、入所施設・通所施設を地域福祉の拠点とし、地域生活・就労支援の充実を図ることです。5番目として、これは千葉県協会のとして要望していることですが、高齢知的障害者の対策です。6番目は施設事業体系の見直し、及び事務の簡素化です。7番目として、障害児は児童福祉法の適用とし、支援内容を学校の教育水準まで充実させる。これは、人員配置を学校教育並にしてほしいということ。8番目として、事業者の安定的な経営、有能な人材の確保対策。9番目は、職員が希望をもって働ける報酬体系の確立。これについては都市部が月額、地方は月額と主張が分かれています。10番目に、新法制定までは旧体系を維持して、自立

支援法の改善を求める。ということですが、要望としてあげても新法として制定されるまでには時間がかかります。4年間ぐらいいは混沌とした状態が続くのではないかと思います。その間の自立支援法の取り扱いはどうするか、以前は凍結と書いてありましたが、意味がよくわかりません。民主党の議員さんと話しても、こうした状況を理解している人は少ないですね。



ことと、内容が明確になっていないという問題があります。ある議員さんが言っていました。このカードを持っていけば全国どこに行っても同じ様なサービスが受けられるようにするというような、理想的なカードな訳ですが、現実的に出来るかどうかは今後の課題だと思っています。地域にこれだけの格差ができてしまっているわけですから。

障害程度区分をみても財政が豊かな所ほど高い傾向ですが、入所している人は一律に区分4と決めている様なところもあります。これでは程度区分の意味さえありません。障害程度区分については、無くすことになったようですが、無くした後、報酬の区分はどうなるのかも見えません。



次に、定義についてですが、とにかく、知的障害者は定義がありませんので、この際、明確にしたいです。また、死んだようになっていいる知的障害者福祉法をどうするかという問題、各種手帳制度、受給者証の発行手続き・期間・内容が複雑だということもあります。また、利用者負担については、基本的に応能負担ということとは決まっていますが、問題は、福祉的就労者の負担と、児童は全て無料にすべきだということがあります。入所系の利用者の負担については、補足給付の関係で全く改善されていません。

一番の懸念は、知的障害者の特性が薄らいでしまったことです。支援という知的障害特有の観点が理解されなかった。その為に、今の様な状況になっていますので、障害の特性を訴えていかなければならないと思っています。障害程度区分の認定調査の時も親や施設の職員が保わっていますが果たしてそれで良いのか。身体障害者とは当然違います。契約する時に、成年後見制度を使って契約した方がいいたい何人いるでしょうか。本来は違法行為です。やはり行政が責任を持つべきだと考えます。そう言う視点にも一度立たないと、非常に危ないと思います。自立支援法では、児童でも成人でも措置制度が残っています。でもこの制度は行政が消極的です。児童はある程度のガイドラインがありますが、成人でも親御さんのいない方などで、成年後見制度を使っている方については、やはり、行政の責任でやっていかなければいけません。

グループホーム・ケアホームを民主党は新グループホームということで、統合すると言っています。で、まず統合されるでしょう。日中活動の整備と統合ですが、就労にはあまり結びつかない方、生産活動に馴染まないような方達、要するに昔の通所更生施設です。これを第一の活動事業所。就労継続・就労移行・自立訓練という就労系を二つ目。福祉工場のようなA型事業を労働系というまとめ方も議論の最中ですけれども、このような話がでているということですが、施設整備についてですが、今、首都圏と近畿圏は入所待機者が大変な数になっています。国の方はまだまだ地域で暮らせる人がいるのではないかと思います。短期入所や急場をしのいでいる状況は改善の余地があります。

相談支援体制ですが、ワンストップで受けられる総合相談体制をつくるため、地域の実情に合った配置をして欲しい。市町村の配置にしますと、多分、今のうちに機能しなくなってくるだろうと。昔の地域療育等支援事業のように、人口30万圏域で1箇所とかが良いのではないかと思います。今の障害者就業・生活支援センターと県で実施している療育支援事業の相談事業をまとめて行う。廃案になったものは、基幹型の相談支援事業の下に相談支援事務所を設けるという形でしたが、30万圏に1カ所、ワンストップで相談を受けられる機関があればなんとか出来るのではないかと思います。この相談体制はきちんとしていたものにしていかないと。いづれにしても、これまで利用者も事業者も不安定な状況に置かれていました。2、3年で危うくなるような法律ではなく、10年20年先まで見通せる福祉制度を作りたいと言っています。それを強く願うばかりです。そのために関係機関・団体との連携がいつそう求められると考えます。

(理事長)

平成二十一年十一月二十五日
千葉県知的障害者福祉協会
施設長研修会講演から抜粋

一生懸命
上田 郷

「ヘックションン！」体中の節々が痛い、熱は三九度、寒気がする・・・

そう、私は世間で今話題沸騰中の新型インフルエンザに感染し、病の床に伏せている真つ最中なのだ。同居している家族へうつしてはいけないので個室にて静養しているが、寝ているだけなので暇で暇でしようがない。

そんなときだった、ふる里学舎和田浦から電話が入る。

「もしもし、久しぶり！元気か？」
と。もちろん元気なわけではない。



「新型インフルエンザで寝込んでます。」

と答える。すると受話器の向こうから、「おお、そうか、寝込んでる所、悪いんだけど、佑啓の原稿よろしく！」と。ちょうど良かった。テレビもラジオもなく、暇を持て余していた私にとって最高のお見舞いであつた。早速ノートパソコンを枕元にセッティングして執筆開始！

お題は、「ふる里学舎旅行クラブ河津七滝めぐり」である。

ふる里学舎に『旅行クラブ』と称するクラブがあるのを皆さんはご存知だろうか。旅行が好きな職員が集まり、年に数回旅行に出かけるのだ。

今回の行き先は、静岡県河津七滝温泉。参加者は千葉から十名、静岡から一名。ん？静岡から一名？そう、その一名は私である。

学舎を退職して数年たった今でも、旅行クラブの活動があると誘いの連絡が入る。旅行クラブの活動は物

凄く楽しい。何が楽しいのかって？そりゃー決まっていますよ。夜の大会。これに尽きます。

十一月上旬、現地集合とのことで、河津温泉を目指し車を走らせる。河津に近づくにつれ、周囲の木々が黄色や赤に変化し、秋を感じさせてくれた。当直明け

だというのに、眠気は全くなく、益々テンションが上がってしまつた。

ホテルへ到着して、クラブメンバーと感動の



再会を果たした後、河津七滝を散策する。滝から湧き出してくるマイナスイオンを、全身で吸収し身も心もリフレッシュ。その後、宿へ戻り温泉へゴー。落差三十メートルはあろう大滝を目前に、温泉へつかる。

「あーなんて贅沢なんだ」「旅行クラブバンザイ」ちなみに七滝温泉は混浴♡
綺麗な景色をみて、温泉を満喫し、いよいよ大宴会のスタートである。始めは、お互いの近況報告や仕事に関する真面目な会話をする。常に進化しているふる里学舎。里見理事長をはじめクラブメンバーとの会話は刺激的且つ、とても勉強になった。飲み物がビールから日本酒に変わってくると次第に宴会の雰囲気は変化し始め、笑い声が大きくなる。「おい、隣の宴会場に盛り上がりで負けるな！」「こっちの方が楽しいぞ！」「わっはっははっ」「えんちよ、美川憲一のカラオケお願いします！」

頃もそうだった。入職四年目にして和田浦のオーブンスタッフとして異動。「おい、このガラス温室で何か作るんだ」と話があれは、南房総ならではの切花をガムシヤラに作った。「食品加工棟を作るから、何かやれ」と言われれば試行錯誤しながらジャムや漬物を作った。石ころばかりの敷地に芝を植え、桜の木を植えた。宴会があれば、とこん吞んで騒いだ。本

追伸
今年結婚したばかりの嫁に「インフルエンザや水虫なんかを職場から貰ってきて、しょうもない！」「しっかりと働いて給料を貰って来なさい！」と叱られる始末・・・いつまでもフラフラしていられません。さあ、明日から一生懸命頑張りますかあ！
(社会福祉法人 富士旭出学園 富士明鳴園 支援員)

『ザリちゃん。』
おいで・・・
松橋 雅子

ふる里学舎さんで様々な体験をさせていただくようになってから二年目となります。きっかけは、人や自然を慈しむ園の教育方針と、学舎さんの理念に相通ずる点が多くあることでした。

子どもは愛され大切にされているという気持ちで満たされると、自信を持ち生き生きと輝き始めます。お互いの良

さを認め、思いやる気持ちになります。幼児期に、そんな自分を信じ、創造する力の芽をはぐくみたいのです。

育てるには環境が大切です。具体的に何かないかな、と考えて、びんときました。学舎さんだと。広大な敷地、自然、心地よく整った設備、様々な体験を通して取り組み。ここに来たら、どんなに喜ぶことだろう。子どもたちと一緒に引越してきたいくらいです。

これはもう、お願いするしかないと思いました。わがままを心良くお引き受けくださったこと、本当に感謝しています。

保育において私達は、本物に触れ、感じ、体験することを大切にしています。ひとつひとつの経験が、生命の尊さに気づく、人の温かさに触れる、生き抜く力、大切な物を見抜く力となる

と考えるからです。園児たちは、プルーベリー摘み、ザリガニ釣り、さとやま散策、ジャガイモ掘り、そして年長児は陶芸活動等もさせて

いただいています。

実際に収穫して「おい

しいね」と、ともに共感すること。スルメをつけた糸をたらし「ザリちゃん。おいで・・・」と水面をじっと見つめること。釣れた時の歓声。野山をみんなでかけ回ること。「そこ気をつけてね」自然と声を掛け合っている。木の実や草、花、山の香り、光の煌きに気付く子どもいます。登った時の眺め。「やつぽー！誰からもなく声が出ます。自然でなんて気持ちがいいのでしょ。子どもは素直に反応します。

土から、お血が出来ること。お話を聞き、窯や工程に見入る顔は真剣そのものです。実際に思い思いの作品を作り、出来上がりを手にした時の喜び。子どもは楽しいことを見つめるのが



得意ですから、すぐに興味は他に移り、前のことは忘れてしまったように見えます。でもそんなことはありません。心の中に原体験としてしっかりと蓄えられています。そしてふとした時に原体験は甦り、更なる感動、体験へとつながるのです。

春に体験したザリガニ釣り、冬にはザリガニがいらないことに気づきます。「どうしたんだらう」と探します。「どうしてかな」園に帰り、図鑑で調べます。冬はじつとしていて

ことに気づきます。

年長児が冬にいたたい

たカブトムシの幼虫。園に帰るとすぐに「あんまり触らないでね、優しくね。」と、教えていただいたことを伝えながら、大切そうに小さな子ども達にも分けています。家で育て、立派なカブトムシになったことを報告に来てくれた卒園児もいます。



原体験は、子ども達の表現活動にも現われます。絵を描く時も、原体験はイメージとなり、絵を生き活きとダイナミックにさせます。創作活動や友達との共同遊びにも、体験の素になっているものが、あちこちに見られます。

私達は、活動を通して貴重なエッセンスをたくさん内包した子ども達ですが、やがて自分自身なりにやっていけるといいう自己肯定感、有能感を持った大人となることを願っています。

自然だけでなく、いろいろな人に気づくこと、人の温かさに触れるという事でも貴重な体験をさせていただいています。利用者の方々も、きつと大切にされているという安心感に満ちているのでしょ。とても優しく子ども達に接してくださいいます。コミュニケーション能力の基礎となります。

子ども達といくと、くくりを作って

いるのは、大人達だけなのではないと思います。子どもは人を、そのまま個性としてずっと受け入れることができます。

もし、くくりがなかったらどうなのでしょう。子ども達の世界のように、人は自分なりに持てる力をもつて思いやり、助け合って生きていくのではないかなと思います。

ありのままの姿を誰もが認め合うことができたなら、みんな、もともと生きやすいのになと感じます。そして、すべての人がその気持ちに気づくことができたなら、この世界は一瞬にして変わると思っています。私達が守るべきものが守られる社会が、築けるのではないでしうか。

自然を愛し、生き物を愛し、人を慈しむ社会。そんな社会を願ってやみません。私達の試みはまだ小さなものですが、人から人へと伝わり、未来への架け橋となったら嬉しいなと思います。

貴重な体験を実現させていただいた、ふる里学舎の皆様方に、末筆ながらこの場をお借りして、心より感謝申し上げます。

(学校法人黎明学園 第二姉ヶ崎幼稚園 園長)

編集後記

気付けば十二月。あつという間に今年も残りあとわずかになりました。最近、毎日充実しているようで、一日が本当にあつという間に過ぎて行っている感じがします。残り少ない「今年」を一日一日大切に、そして、来年も良いスタートが切れればな...と思いつつ佑啓七十一号をお送りします。

良いお年を！
吉本 真理子